

釣れ釣れなるままに

2008年思い出の釣行記 PART. 4

おぼろしくなりました



鹿島釣狂

岩見沢釣遊会第4回大会

☆開催日 平成20年8月3日

☆開催場所 様似港～襟裳港

☆入釣場所 下近浦

☆釣	果	アカハラ	400	mm	4
		タカノハ	359	mm	1
		重量	246	g	
		合計点数	1005	点	(2魚種身長+5匹重量)
☆成	績		2	位	(身長優勝)

## 仲間の急逝

出張先である札幌のホテルで休んでいるところへ、釣遊会会長から電話が入った。仲間の佐々木秀美氏が心筋梗塞のため急逝したので、7月20日に予定していた第4回大会は延期するというものだ。彼は会長と釣り情報を交わした後、会長の店を出たところで倒れて労災病院に救急車で搬送されたが間に合わなかったという。何度か目眩のようなことがあったので、検査入院をしたが特別な異常は見当たらず、当日の様子も普段と変わらなかったということだ。

通夜に参列した。祭壇には「岩見沢釣遊会」や「北のつり会」の弔旗が掲げられ、3本のスピンプワーが三脚に立て掛けられていた。主人のなくなったスピンプワーは回転灯籠が放つ光で虹色に染まっていたが、どことなく淋しげに祭壇に浮かび上がっていた。そして、彼は沢山の釣り仲間に見送られて旅立っていった。

佐々木秀美氏は、岩見沢釣遊会のエースとして君臨し、会の運営にも何かと面倒を見てくれていた。特に釣り場情報に明るく、釣り場に向かうバスの中では彼が実際に現場に足を運んで集めた最新情報を惜しげもなく伝えてくれていた。「この舟揚場は1週間前に〇〇氏が魚を抜いてしまった」「ハタハタ漁がはじまり、〇〇海岸にカジカが寄ってきている」「この海岸は最近磯焼けがひどくなり、魚がいなくなった」等々、私も随分とお世話になった。特に新冠町新冠川河口、えりも町東歌別、静内町春立、蘭越町尻別岬、寿都町弁慶岬、浦河町幌島は現場でも様々な指導を頂いたお陰もあって優勝させていただいた釣り場である。

彼のことから冥土への土産にと、三途の川で釣りを楽しんでいそうな気もするが、安らかなるご冥福をお祈りしたい。

## 狙いはタカノハ？

延期された大会は8月3日に実施すると事務局長から電話が入る。当日は予め業務が入っていたが、都合をやりくりして何とか参加することにした。

今回のエサは丸ガツオではなく三枚に下ろしたパックモノを購入する。8月の夏枯れの時期で使用するカツオの量を推し測ることができなく、残ったモノはそのまま冷凍庫で保存して次回に使うという魂胆だ。

米国のサブプライムローン問題に起因した不安定な世界経済の裏で投資家が暗躍し、ガソリンから食料品にいたるまで急激に値上がりしてきた。漁業者もガソリンの値下げを求

めて、全国的規模で漁を休んでしまう有り様だ。それが、私たちが使う釣りエサにまで波及してきていると思われるのだ。減らしたエサが心許なく、念のためにと「海鮮市場」に行くと、どうしたことか新鮮な生サバが思わぬ安い値段で置いてあった。値札の横に「三枚に下ろします」と丁寧な案内があり、前回の大会で仲間からサバもよいエサになると聞いていたので4本を購入してみる。

出発時刻に余裕をもって到着すると、会員のほとんどが集合していた。そして、俄に立ちのぼった夏雲から降り落ちる激しい夕立の中、バスは様似港へ向けて出発した。会長は挨拶の中で佐々木秀美氏の生前の思い出話を交えて弔いの言葉を述べた。8月の大会開催は釣遊会では初めてのことである。夏枯れといわれる8月はどの様なモノが審査に出されるのだろうか興味のあるところだ。

「北海道のつり」7月号でタカノハの釣行記が佐々木和之氏によって紹介された。アブラコ、カジカがあまり望めないこの時期にタカノハ狙いの会員もいたようで、幻ではなかった古い昔の話を引っ張り出しては酒を酌み交わした。私は、その記事を参考に、様似港を過ぎた門別（もべつ）川やシイチカップ川河口、白里谷海岸付近でアカハラ、あわよくばタカノハをとり、潮が引いてからは東平宇の平盤に乗って残り少なくなったカジカやアブラコを狙う予定であった。しかし、現地でバスを停めていただいて海岸を眺めると天気予報通りの高波が押し寄せていたので、近浦に釣り場を変更した。

日付が変わって、近浦のバス停から3つ目の舟揚場で降ろしてもらおう。晩秋のカジカがメインの近浦には釣り人が見当たらない。そして、自分が思い描いていた舟揚場とは何だか様子が違うようだが、構わずその右端で釣り始める。すぐにアカハラ狙いの天秤仕掛けに35cm程のものが食いついてきた。その後、ハゴトコに混じって、ポツンポツンと似たようなアカハラが来て規定のモノはそろった。しかし、他の魚がいる気配は感じられない。

2時、上近浦の方からやって来た釣り人が、近くの国道脇についた荷揚げ階段前で打ち始めた。様子を聞きに行くと近浦の舟揚場でやっていたが思わしくなく、こちらに来てみたということだ。岩見沢釣遊会を名乗る釣り人（吉井氏）に会ったが、彼も釣り物が無く旭漁港方面へと向かったという。そして、その釣り人は「自分は、この近浦で幾度となく釣りをしているが、あなたが打っている舟揚場では釣れた験がない」と言う。

しかたなく、荷物をまとめて釣り場を捜しながら下近浦方面に歩みを進めた。すると、周りの様子から、これこそが初めに狙いとしていたと思える舟揚場が見つかったので、荷物を下ろした。しかし、ここでもウグイやハゴトコが竿を揺らすだけで、さっぱりである。

## 婿も来た！

薄明るくなってきた頃、嵐会長が笛舞方向からやってきた。彼もあまり芳しくないようで、道路の上の狭い路肩から打ち始めた。

遠投の竿にチョンチョンと小さなアタリが続いた後、道糸がふけた。少し大きめのアカハラでも付いたかなと竿を煽るが、手元に伝わってくる感触はウグイのようだ。しかし、

舟揚場前のカケアガリに来てから急に激しい突っ込みをみせる。慎重に舟揚場の斜路に引き摺り上げると、腹が真っ黄色のカレイである。タカノハだ。規定の35cmは超えていそうで、仕掛けにぶら下げたまま嵐氏に向かって叫ぶ。

「嫁が来た！」

やはり遠投の竿に同じ様なアタリが出て、竿を持って身構える。ゴンのアタリに合わせが決まって今度は初めから力強い引きが伝わってくる。先ほどよりは少し大きめのタカノハだろうと思ったが、こいつはアカハラだった。しかし、40cmを超えていそうで、それを仕掛けにぶら下げたまま嵐氏に向かって叫ぶ。

「婿が来た！」

アカハラ40cm以下4本にタカノハ35cm1枚で、目標としている千点にはほぼ到達した。後はアブラコでもカジカでも、あわよくば更に大きなタカノハでもと思えば気が楽である。6時を回って昆布取りの舟が出て、タカノハが釣れた辺りで流れ昆布を拾っている。打つ場所は手前だけになった。

舟揚場に若いご婦人がやってきて挨拶を交わす。潮風で顔は小麦色というより真っ黒だが、夏目雅子に似た美人である。舟の上で昆布を引き上げているご主人の様子を伺いながら、海岸縁で昆布を拾い集めている。何度か舟が近づき奥様が集めた昆布もその舟に積み込んでいる。そして、舟の中が昆布で満杯になったと思われる頃、舳先を持ち上げ猛スピードで沖の方を目指しては帰って来る。天気の良い日は、拾い集めた昆布を沖の海水の中に漬けておき、晴天の日引き上げては干しているらしい。

潮もグングンと引き始め、舟揚場の前方にある岩場が少しずつ頭を出してきた。「7時頃には前の岩場に出ることができるようになるだろう」と言っていた嵐氏だが、また、違う釣り場に出張している。彼の先導がないと岩場に出て行く自信がない。一旦仕掛けを上げて、下近浦に戻っていった嵐氏を捜すと、彼は階段下の浅い海に向かって打っていた。アカハラをエサにカジカを狙っているようだ。「嵐さんに先に出て行ってもらわないと私は岩場に出て行けそうもない」と泣き言を言うと、すぐさま荷物をまとめて先端から2番目の岩に出て行った。思ったほど海底の凹凸が無く簡単に出て行けそうである。私も手ぶらで状況を確認に出て行くと、1番先の岩場の左に黒々とした昆布根が広がっている。締め切り時間も押し迫っているので、1本の竿だけ担いで昆布根の真ん中目がけて打つ。しかし、その竿には何事も起こらなかった。

## 地球温暖化

今回の大会ではあまり大物は出なかった。私はアカハラに嫁のタカノハが効いて準優勝だった。優勝は相馬氏で、様似港で良型のアカハラをとり、明るくなってからエンルム岬の付け根で41cmのクロソイを釣り上げた。3位にくい込んだのは前野氏だ。彼はタカノハを狙って東冬島に入った。暗い内は湾洞で手の平大のタカノハを7枚も釣り上げてはリリースを繰り返していた。そして、潮が引いてから、湾洞の先には必ず大物タカノハがい

ると信じて、前の岩に上がり、その湾洞の出口目がけて打った。そこに規定を超えるタカノハが食いついたというわけだ。他にもリリースサイズではあったがタカノハを手にした会員が何人もいた。近年、こんなにタカノハが釣れたことはない。漁協で取り組んできた高級魚であるタカノハの養殖放流事業が成果を上げてきているのだろう。タカノハが幻ではなくなったのを実感した。

審査会場で珍しい魚を見た。どうも「竜宮の使い」という魚らしい。幅広のタチウオの背中にオレンジの三角旗を配した如何にも縁起の良さそうな大魚だ。山岸氏が上近浦で釣りをしていると、波打ち際を見たこともない大きな魚が泳いでいる。それを付近にいた昆布取りの漁師が手慣れた手つきですくい上げたというのだ。漁師の手から助けてあげて海に返してあげたのなら竜宮城で乙姫様からの恩返しの宴もあっただろうに……。これからの釣行ではタイやヒラメの舞い踊りだけでなくアブラコにカジカ、ホッケにカレイの大歓迎も望めたのに……。記念にともらってきたのでは、それは叶いそうにもない。反対に不幸が降り掛からなければよいが……。

近年、大会終了後に馴染みのない魚が披露されることが多くなってきたがこれも地球温暖化のせいだろうか？まぼろしの魚がまぼろしではなくなったのを感じながら眠りについた。





「竜宮の使い」を持つ山岸氏。乙姫様からの恩返しはなくなった。



41cmのクロソイが効いて総合優勝を果たした相馬氏。





狙い通りタカノハを釣り上げて3位入賞を果たした前野氏。